

# 希望

岩越祐子

## ■原点

七才の私に

アンデルセンの

「みにくいアヒルの子」は

希望と

勇気を与えてくれた

十才の私に

「小公女」は

逆境に負けない心と

想像力を教えてくれた

本よりマンガを読んでいた私

本は悩みを解決してくれるものだと思った

母に

世界文学全集一〇〇冊を買ってもらい

本を読むようになった

エッセーを書き

詩を書くようになった

■カサブランカ

カサブランカの白は正義の色

カサブランカのつぼみは

必ず開く希望

カサブランカの香りは

幸せの香り